

# 2025年度 法科大学院

## 第2期入学試験問題

### 3時限

### 刑法

### (論文式)

## 試験時間 50分

#### 注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子の1ページから問題が掲載されています。
3. 試験時間中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は手を挙げて監督に知らせてください。
4. 解答用紙には解答欄以外に記入欄がありますので、監督の指示に従ってそれぞれ正しく記入してください。
5. 解答は、必ず解答用紙の解答欄に記入してください。解答用紙の解答欄以外に記入された解答はすべて無効とします。解答用紙の裏面を使用する場合は「裏面に続く」と記載してください。
6. 解答用紙は各1枚しか配布しません。複数枚請求されてもお渡ししません。
7. 貸与した六法以外の参照は一切できません。
8. 試験問題の内容等について質問することはできません。
9. 問題冊子の余白等は適宜使用してかまいませんが、解答用紙の解答欄以外に記入された解答は無効とします。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

## [刑法]

以下の事例におけるXとYの罪責について論じなさい。

(事例)

- 1 X及びYは、株式会社法政ホテル（代表取締役・法政太郎）が経営する「ホテル法政」のフロント受付係であり、ホテル宿泊客の対応業務、宿泊客の貴重品を預かる業務などを担当していた。フロント受付係は、フロントで貴重品を預かる際に、①宿泊客の面前で、専用の保管袋に貴重品を入れて封をして糊付けし、袋の表面の所定箇所に、宿泊客の氏名、部屋番号、品名、預かった日時を書き込む、②貴重品の入った保管袋をフロントの奥の部屋のホテルの金庫に入れる、こととなっていた。
- 2 ホテル宿泊客がチェックアウトする際の貴重品の返還は、フロント受付係が、①宿泊客がフロントに持参した部屋の鍵などで本人確認をする、②ホテルの金庫から保管袋を持って来て宿泊客の前で開封して貴重品を渡す、こととなっていた。
- 3 甲は、令和6年6月15日夜11時頃、「ホテル法政」にチェックインし、高級ブランド腕時計（時価100万円相当。以下、「腕時計」という。）を、貴重品として預けることにした。その時、フロント受付係を担当していたのはXであった。
- 4 甲と対応したXは、最近金に困っていたことから、腕時計を自分の物として、ホテル近くの中古品屋で売却しようと考えた。そこで、Xは、腕時計が封入されている保管袋を金庫に入れずに背広の内ポケットに入れた。Xは、翌16日昼頃、腕時計を中古品屋に持ち込んで、100万円で売却した。
- 5 15日深夜12時に、フロント受付係はXからYに交代した。翌16日午前10時、甲は、チェックアウトする際、Yに対して「昨晚預けた腕時計を返してほしい。」と言った。Yは、Xが宿泊客からの預かり貴重品を中古品屋に持ち込んでいることを知っており、今回もまた同じ手口でやったのだとすぐに察知した。そこで、Yは、Xを助けるつもりで、「申し訳ありませんが、金庫にはお客様からの預かり物が入っておりません。」と言った。甲は、「昨晚酔っていたのでよく覚えていない。自宅に腕時計を置き忘れたかもしれない。」と言って、ホテルを出て行った。
- 6 その後、YはXに上記5の事情を話し、Xから分け前として10万円受け取った。